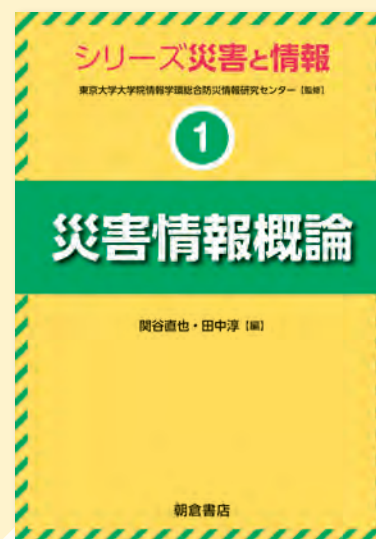
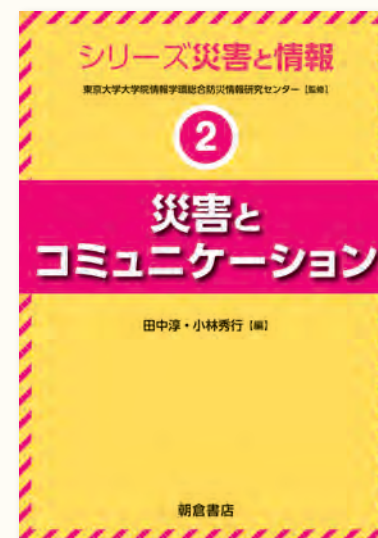
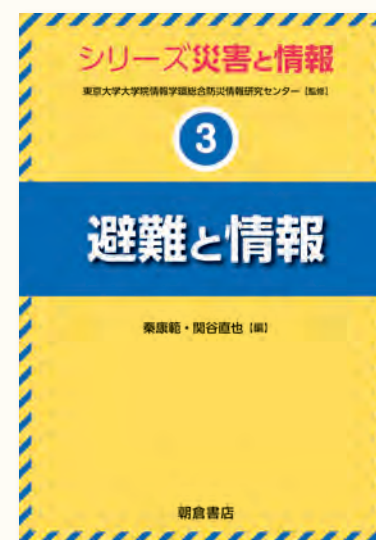
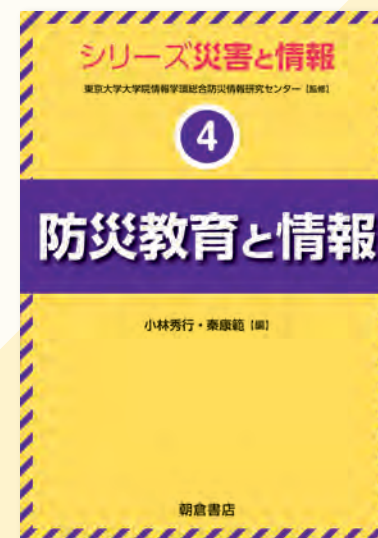


## シリーズ 災害と情報

東京大学大学院情報学環総合防災情報研究センター [監修]

シリーズ編集 》 田中淳 [東京大学名誉教授] 関谷直也 [東京大学] 秦康範 [日本大学] 小林秀行 [明治大学]

2026年  
9月刊行!A5判/168頁  
定価 3,520円  
(本体 3,200円)  
978-4-254-16084-0A5判/184頁  
定価 3,520円  
(本体 3,200円)  
978-4-254-16085-7A5判/152頁  
定価 3,520円  
(本体 3,200円)  
978-4-254-16086-4A5判/160頁  
定価 3,520円  
(本体 3,200円)  
978-4-254-16087-1

## 読者対象

防災・災害の分野に関わる研究者・学生、関係学会、自治体の防災関係者、メディア関係者、企業の防災担当者、教員、大学図書館・公共図書館などの各種図書館

【キリトリ線】

【お申込み書】このお申込み書にご記入の上、最寄りの書店にご注文ください。

|                                                                   |                           |                      |
|-------------------------------------------------------------------|---------------------------|----------------------|
| <b>1. 災害情報概論</b><br>978-4-254-16084-0<br>定価3,520円(本体3,200円)       | <b>■お名前</b><br>_____      | <b>取扱書店</b><br>_____ |
| <b>2. 災害とコミュニケーション</b><br>978-4-254-16085-7<br>定価3,520円(本体3,200円) | <b>■ご住所 (〒 )</b><br>_____ |                      |
| <b>3. 避難と情報</b><br>978-4-254-16086-4<br>定価3,520円(本体3,200円)        | <b>■TEL.</b><br>_____     |                      |
| <b>4. 防災教育と情報</b><br>978-4-254-16087-1<br>定価3,520円(本体3,200円)      | _____                     |                      |

## シリーズ災害と情報 〈刊行のことば〉

関東大震災、伊勢湾台風、阪神・淡路大震災や東日本大震災において、コミュニケーション、情報、メディアは常に中心的課題であり続けた。地震・火山・台風や豪雨などの自然現象そのものを防ぐことはできなくとも、それらを予め知り、適切に避難し、対処するための有益な情報があれば、被害を軽減することができる。人の命を救うことができる。情報やメディアというものが当たり前となる世の中で、今では誰しも災害時の情報の重要性を認識するようになった。

人の生命に直結するこの「防災」「災害情報」という研究分野は、あえて学際研究や学問間の架橋と呼ぶまでもなく、当初から地震学、気象学など火山学の理学、都市工学、地震工学、土木工学などの工学、社会心理学、コミュニケーション研究などの社会科学をまたがって議論し、研究を進めながら発展してきた。

災害でより多くの人々が助かるための情報、コミュニケーション、避難、教育、データの在り方は何か。本シリーズは、災害情報に関わる研究者によって編まれた、災害と情報に関する研究成果の集大成である。各論考を読めば、それが極めて現実的で、切実な議論であること、また災害事象や災害にまつわる社会事象という現実を探究しつつ、防災上の「正解」を求めて試行錯誤する営みであることに気づくはずである。

本シリーズは、東京大学大学院情報学環総合防災情報研究センターおよび日本災害情報学会に関わる研究者・実務者の協力により企画・執筆された、災害情報論分野の入門書であり、同時に最新の知見の集積でもある。災害研究を志す初学者から、災害対応に携わる実務者・専門家まで、広く手に取っていただきたい。

田中 淳・関谷直也  
秦 康範・小林秀行

情報でひもとく、防災の「今」と災害の歴史

## ① 災害情報概論

東京大学大学院情報学環総合防災情報研究センター 〔監修〕  
関谷 直也・田中 淳 〔編〕

定価 3,520円（本体 3,200円）  
A5判／168ページ  
ISBN:978-4-254-16084-0 C3344

メディアを通した災害対応・防災のコミュニケーション

## ② 災害とコミュニケーション

東京大学大学院情報学環総合防災情報研究センター 〔監修〕  
田中 淳・小林 秀行 〔編〕

定価 3,520円（本体 3,200円）  
A5判／184ページ  
ISBN:978-4-254-16085-7 C3344

避難行動を導く情報のあり方

## ③ 避難と情報

東京大学大学院情報学環総合防災情報研究センター 〔監修〕  
秦 康範・関谷 直也 〔編〕

定価 3,520円（本体 3,200円）  
A5判／152ページ  
ISBN:978-4-254-16086-4 C3344

防災教育が育てる「災害と向き合う」力

## ④ 防災教育と情報

東京大学大学院情報学環総合防災情報研究センター 〔監修〕  
小林 秀行・秦 康範 〔編〕

定価 3,520円（本体 3,200円）  
A5判／160ページ  
ISBN:978-4-254-16087-1 C3344

第Ⅰ部 災害と情報をどうとらえるか

|    |                    |       |
|----|--------------------|-------|
| 1章 | コミュニケーションとしての災害情報  | 田中 淳  |
| 2章 | 防災と防災研究の現在地        | 片田 敏孝 |
| 3章 | 「避難学」を確立するための7つの提言 | 矢守 克也 |
| 4章 | 災害情報研究小史           | 吉井 博明 |
| 5章 | オールハザード・アプローチ      | 福田 充  |

第Ⅱ部 過去の災害から学ぶ

|     |                              |       |
|-----|------------------------------|-------|
| 6章  | 阪神・淡路大震災 ―防災から減災へ―           | 室崎 益輝 |
| 7章  | 首都直下地震 ―被害想定と東京の事前防災―        | 中林 一樹 |
| 8章  | 東海地震 ―地震予知の系譜―               | 安本 真也 |
| 9章  | 新潟地震 ―放送における災害報道の原型―         | 入江さやか |
| 10章 | 東日本地震 ―IDPsと広域避難―            | 丹波 史紀 |
| 11章 | 災害検証の意義と限界 ―災害検証は何を明らかにするのか― | 関谷 直也 |

第Ⅰ部 情報

|    |                             |       |
|----|-----------------------------|-------|
| 1章 | 災害情報の特質と課題―緊急時の災害情報からみる―    | 田中 淳  |
| 2章 | 緊急地震速報に関する人々の意識と対応          | 中森 広道 |
| 3章 | 災害復興と情報―被災者の道具立てとしての復興シンボル― | 小林 秀行 |
| 4章 | 既往最大から科学的最大限など、災害情報の設計      | 横田 崇  |
| 5章 | 被害想定                        | 安本 真也 |
| 6章 | 国際機関と防災                     | 地引 泰人 |

第Ⅱ部 メディア

|     |                    |       |
|-----|--------------------|-------|
| 7章  | 放送と災害              | 山崎 登  |
| 8章  | 民間放送と災害            | 谷原 和憲 |
| 9章  | 多様化する防災通信メディアと携帯依存 | 中村 功  |
| 10章 | ローカル・メディアと避難       | 宇田川真之 |
| 11章 | 災害とソーシャル・キャピタル     | 薛 欣怡  |
| 12章 | 災害時の支援における組織間連携    | 重松 貴子 |
| 13章 | 在留外国人と防災           | 黄 欣悦  |

第Ⅰ部 避難と概念

|    |                                    |       |
|----|------------------------------------|-------|
| 1章 | 大規模災害における広域避難<br>―緊急避難から生活再建・帰還まで― | 関谷 直也 |
| 2章 | 避難に関する4つの政策パラダイム                   | 永松 伸吾 |
| 3章 | 避難と報道の倫理                           | 飯田 和樹 |
| 4章 | 降水量の既往最大比と避難情報                     | 本間 基寛 |

第Ⅱ部 避難と制度

|     |                     |       |
|-----|---------------------|-------|
| 5章  | 「避難情報に関するガイドライン」の変遷 | 牛山 素行 |
| 6章  | 避難情報廃止論             | 及川 康  |
| 7章  | ハザードマップ             | 秦 康範  |
| 8章  | 避難と土地利用 ―洪水浸水想定区域―  | 秦 康範  |
| 9章  | 災害情報と社会の避難行動        | 越山 健治 |
| 10章 | 避難情報とその対象範囲         | 廣井 悠  |
| 11章 | 地域と避難 ―避難と地区防災計画―   | 磯打千雅子 |

第Ⅰ部 ビッグデータ・ソーシャルメディア・AR

|    |           |       |
|----|-----------|-------|
| 1章 | ビッグデータ    | 秦 康範  |
| 2章 | プラットフォーム  | 白田裕一郎 |
| 3章 | AR/VR     | 板宮 朋基 |
| 4章 | ソーシャルメディア | 石橋 真帆 |
| 5章 | デジタルアーカイブ | 柴山 明寛 |

第Ⅱ部 教育・文化・伝承

|     |              |       |
|-----|--------------|-------|
| 6章  | 防災教育の実践      | 金井 昌信 |
| 7章  | ダークツーリズム     | 井出 明  |
| 8章  | ボランティアと学び・協働 | 宮本 匠  |
| 9章  | 防災教育の理論      | 城下 英行 |
| 10章 | 災害の継承と教訓     | 小林 秀行 |
| 11章 | 「災害を語る」意味と効果 | 佐藤 翔輔 |

